

[TOP
ページへ](#)[過去の
カレンダー](#)

島根半島周辺の20社寺が神話の地巡礼コース

国引き神話の舞台となる島根半島で、新しい巡礼コースづくりを進めていた二十社寺が七日、新組織「出雲の国社寺縁座の会」を立ち上げた。宍道湖、中海周辺の著名な神社仏閣が参加し、来年四月二十三日に霊場を開く。宗派や神仏を超えた巡礼コースは全国でも珍しく、神話の地で、参拝者に心の安らぎを実感してもらおう。

霊場の名前は「出雲国神仏霊場」。霊場を開いた後、社寺ごとに参拝の証しとなる朱印を、参拝客が持参する札に押す。

社寺の名前などを彫刻した「護縁珠(ごえんじゆ)」と呼ばれる物品も有料で配布。二十社寺分をつなぎ合わせると、一つの輪が完成する。大きさやデザインは未定。

出雲大社で七日にあった同会の発足式で、名誉座長に出雲大社(島根県大社町)の千家尊祐宮司、座長に清水寺(安来市)の清水谷善圭貫主を選出。パンフレットの作製や、合同祭事を年一度開くことを決めた。

千家宮司は発足式で「出雲の地を訪れた人の中で、ご縁が生まれ広がっていくよう、一步一步歩いていきたい」とあいさつした。

一部の社寺や有識者が「神話の地を巡礼することで、自分自身を見つめ直してもらいたい」と、三年前から新しい巡礼地の構想を練り、島根半島周辺の社寺に入会を呼び掛けていた。

[TOP
ページへ](#)[過去の
カレンダー](#)